

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名： **大学院医歯薬学総合研究科（歯学系）**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>1) 大学院履修コースの充実 (背景:OMIC事業と歯学系融合型研究を推進するため) 一般コースと臨床専門医コースを中心とする履修コースを充実させ、OMIC事業の推進を図る。基礎系・臨床系分野が協力し歯学系独自の研究(融合型)と教育を推進する。</p> <p>2) 優秀な大学院生の育成 (背景:大学間ネットワーク「口腔からQOL向上を目指す連携研究」による) 大学院生の研究、国際学会出席、短期留学を支援し、国際的に通用する研究能力を持つ大学院生の育成を進める。他大学との連携強化に努める。</p> <p>3) 大学院生の確保 歯科研修医等の研究マインドの醸成に努める。</p>	<p>1) 一般コース、臨床専門医コースのカリキュラムの充実を図り、留学生のための英語による授業を含め、選択授業の内容のアップデートを行った。夏には、1年生の大学院生全員を対象に、研究デザインワークショップを開催し、臨床研究能力の向上に努力した。また、岡山分子イメージング高度専門人材育成事業を進め、計画どおり、OMICの推進、分子イメージング科学講義シリーズの開講、修士課程でも履修ができるよう分子イメージングコースの開設を行った。基礎と臨床系分野が協力し、協同研究・教育の推進を行った。その結果を、2011 医療系融合・発展に向けてのブレインストーミングin直島に参加し、発表した。</p> <p>2) 口腔からQOL向上を目指す連携研究の経費を用いて、大学院生の国際学会出席、短期留学、スカラーシップの分配を行い、国際的な能力をもつ大学院生の育成に努めた。また、サマースクールや連携会議に出席し、他大学の歯学部優秀な研究者や学生と交流した。</p> <p>3) 歯科研修医や6年次学部生に対して、大学院の説明会を開催し、大学院への入学を促した。その結果、責任定員を超える大学院生(40名)を確保することができた。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	
②-1 目標	
<p>1) 歯学系融合型研究の推進 (背景:歯学系独自の研究の推進と次世代の研究・教育者の育成のため) 歯学系内での基礎研究と臨床研究の橋渡し(トランスレーショナル・リサーチ)の体制構築と人員配置方法について検討する。</p> <p>2) 歯学系分子イメージングの推進 (背景:理化学研究所との連携大学院に参画するため) 歯学分野に分子イメージングの手法を取り入れた学際的研究を企画する。</p> <p>3) 他の医療系(医学系・薬学系)との研究交流をさらに活発化させ、新たな研究シーズの発見とその臨床応用に向けた取り組みを開始する。</p>	<p>1) 学部長裁量人事として、助教を基礎系分野や臨床系分野に重点配置し、トランスレーショナル・リサーチに注力させている。</p> <p>2) 分子イメージングを歯学系で担当する責任者として、口腔放射線学分野の浅海教授をお願いし、歯科系として分子イメージングの研究手法を取り入れることができる研究を検討している。</p> <p>3) 各学系内での協同研究はもとより、他の学系との協同研究を進めるために、2011 医療系融合・発展に向けてのブレインストーミングin直島にて、歯科系若手研究者を中心にして発表を行った。また、2012年2月には、先端医学研究のトレンド2012と題して講演会を企画し、歯学系からも若手研究員を中心に参加した。また、その際、ポスター発表をお願いし、学系を超えた協同研究が生まれるよう、ディスカッションを行った。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③診療領域	
③-1 目標	
<p>1) 医科との診療連携を推進する (背景:特殊歯科総合治療部の改組に対応するため) 医科との診療連携の推進ならびに連携強化のための新たな人材の育成、教育、研究の充実を図る。</p> <p>2) 各専門診療科は増収に努めるとともに、患者サービスの向上により利用される病院を目指す。</p> <p>3) デジタル化に対応した医療情報システムならびに診療体制の充実を図る。</p> <p>4) 診療内容に関する患者説明用パンフレットを充実させ、わかりやすい医療の推進を図る。</p>	<p>1) 医療支援歯科治療部を設置し医科入院患者の歯科治療を担当すると同時に、同部門で研修医教育を開始したことで、臨床面・教育面から医科との連携を強化した。</p> <p>2) 各診療科ごとに毎月の診療報酬額の増減に関係する要因を分析し、増収に努めた。平成23年4月～24年1月の累積では、前年度と比較して5.3%増収した。また、駐車場混雑緩和のための方策についての患者アンケートを実施し、患者サービスの向上を図った。</p> <p>3) 病院外部からの文書を電子化して医療情報システムに取り込む体制を充実させた。</p> <p>4) 診療内容・診療費用等の提示方法に関する患者満足度調査を行うとともに、患者説明用パンフレットの改善の検討を開始した。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④社会貢献領域	
④-1 目標	
<p>1) 研究成果や臨床技術進歩の情報発信源として、同窓会や公開講座への協力を進める。</p> <p>2) 臨産学官の連携によって、研究成果を医療や産業へ展開する。</p> <p>3) 地域の中核病院としての機能の充実を図る。</p>	<p>1) 公開講座として「岡山大学摂食・嚥下障害研究会」のシリーズ(6回)および「歯周病ってどんな病気?」、「入れ歯マイスター」養成講座、生涯学習研修会として歯科エックス線優良医講習会「基本から学ぶ歯科用コーンビームCTの基礎と臨床応用」、同窓会との協力事業として「第5回岡山歯科薬物フォーラム」を開催した。さらに、歯学部同窓会卒業研修会として、「歯周組織再生療法をより身近なものに」を開催した。</p> <p>2) 「ヒトリコンビナントBMP-2による歯槽骨再生の臨床応用」について、企業との協同研究で前臨床に入り、特許申請を行った。さらに「簡易型ブラキシズム測定装置の臨床応用」について企業との協同研究で、平成23年度に販売直前トライアルを行った。</p> <p>3) 頭頸部がんセンター、口腔がん専門外来の設置を検討し、地域の口腔がん患者に対する総合的な治療機関の整備を始めた。これに関連し、「口腔がん検診」を地域歯科医師会と協力して4回行い、地域医療機関との連携を強めた。また地域歯科医師会等で歯周病に関する講演会を行ない、歯科研修部門では、岡山市保健所とともに地域歯科保健啓蒙活動研修を組み込んでいる。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>組織目標は多くの領域に及ぶため、今後は一元化した活動状況の把握と各構成員への周知徹底を図る方法を検討したい。</p>	